

張珍寧氏のコメントに対する回答

張文良（中国 人民大学）

まず初めに、張先生、精彩のあるコメントをありがとうございます。わたしの論文に対して、張先生が問題提起してくださったことによって、関連する問題についてさらに深くほりさげて考察することができ、本当によい学びの機会となりました。ただ、時間の都合がありますので、ごく手短かに答えさせていただきます。

最初の問題は、澄観の教判論と成仏論です。まず、どうして澄観は大乗終教と円教をともに法性宗におさめているのかという点です。実は、澄観の思想において「円教」の「円」は、二つの意味を含みます。ひとつは「円満」の意であり、華嚴思想が大乗終教よりもより円満であるということです。この意味における「円教」は、いわゆる円教至上主義のニュアンスを有しています。ただし、あくまでも「円」は「円融」「円摂」の意味であって、華嚴思想が大乗終教・大乘始教および小乗教をそのうちに包摂しているということです。教判においては、法蔵が円教の至上性を強調するのは異なり、澄観は円教の円融性を強調します。言い換えれば、円教と大乘終教との差異よりも、両者のあいだに共通する性質に澄観はより注意をはらっています。このような理由によって、澄観は円教と終教とを法性宗のカテゴリーのなかに収めたのです。

次に、成仏の問題についてお答えします。澄観の成仏論の特徴は、「性」と「相」の両面から、成仏の問題を立体的にあつかうところにあります。つまり、「性」の立場においては、有情と無情とがみな成仏できることを認め、それと同時に、「相」の立場においては、非情成仏の可能性を否定します。この立場は、華嚴宗の成仏論と矛盾するのでしょうか。もし法蔵の成仏論を華嚴宗の正統と見なすならば、澄観の成仏論と法蔵の見方には同じではないところがはっきりと見て取れます。しかし、澄観は「性」の立場において非情成仏を認めており、澄観と法蔵とのあいだには、思想の連続性があり、かならずしも完全な矛盾ではありません。ただ言いうるのは、澄観は法蔵の成仏思想を継承したうえで、それを新しく創造し、発展させていったというこ

とです。

澄観の性起説と華嚴宗の伝統の性起説との差異に関しては、もし法蔵の性起説を伝統的な性起説と見なすならば、澄観の性起説と法蔵の性起説には、確実に微妙な相違があります。両者の相違は、どのように如来蔵縁起を位置づけるかということに起因します。ちょうど竹村牧男先生が基調講演において指摘されたように、法蔵は四教判において最高位の教説と見なしますが、五教判においては大乘終教であって、円教には含めません。澄観においては、如来蔵縁起と円教の境界がよりいっそうあいまいです。たとえば、『大乘起信論』の説明を直接引用して円教の教理を説明する例などは、真如縁起と如来蔵縁起とを融合する澄観の傾向を示しています。

私が特に指摘したいのは、張先生がコメントで何度も言及された「華嚴宗の伝統」という概念そのものを私が流動的な概念と捉えているということです。いわゆる華嚴宗の初祖・二祖・三祖・四祖といった祖統説は澄観のあとの時代のもので、「華嚴宗」という概念自体は、非常に遅く出現したものです。澄観の思想は、まちがいなく法蔵の影響をうけており、法蔵の弟子である慧苑に対する澄観の批判を見ると、澄観には法蔵思想の正統性を擁護するという強烈な意識があります。ただ、このことが澄観に明確な宗派意識があるということの意味するわけではありません。少なくとも澄観の時代においては、「華嚴宗」は存在しておらず、「華嚴宗の伝統」というものも存在していません。澄観と法蔵の社会的な背景が同じではないことを考慮すると、彼らの思想が同じでないことも自然なことでしょう。逆に、もし澄観が完全に法蔵の考えを踏襲していれば、その事情を理解することは困難です。

最後に、湛然・澄観の思想と中国伝統思想の関連という問題に関してです。中国の儒教と道教は、自然観において大きな差異があります。簡単にいうと、儒家は日常経験を尊重し、人と無生命の自然物との相違を強調しますが、道教は気一元論から出発し、有情と無情との間の相互の転換を主張します。澄観の伝記によると、彼は若いころから儒家の經典を熟読しており、儒家の教養をそなえていました。彼の著作におけることば遣いや文章の書き方から見ると、彼の思惟方法が儒家の影響を受けていることはひとめで見て取ることができます。これらが彼の仏性観に影響を与えたこともまた自然なことでしょう。当然、この問題は非常に複雑であり、これを論証するためには、さらに詳細な分析が必要です。私は、本論文において一つの問題点を提起したにすぎません。これによって皆さんの関心を引き起こせたらと期待しています。

最後に、張先生の精彩のあるコメントと問題提起に対して、改めて感謝の意を表させていただきますと思います。

(翻訳担当：中西俊英)